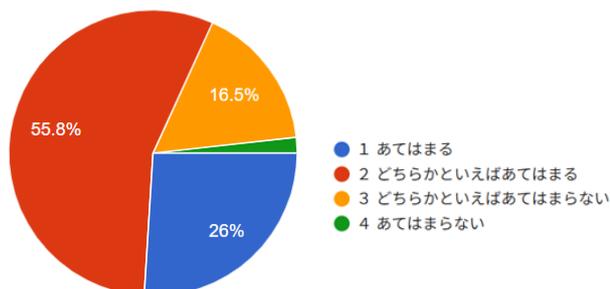


3 データから見る成果と課題

【学びに関するアンケートの見解】

グラフ A

授業の中で分からないことがあったとき、分かるようになるまで（限られた時間の中でできるかぎり理解しようと）取り組んでいる。（家庭学習は除く）

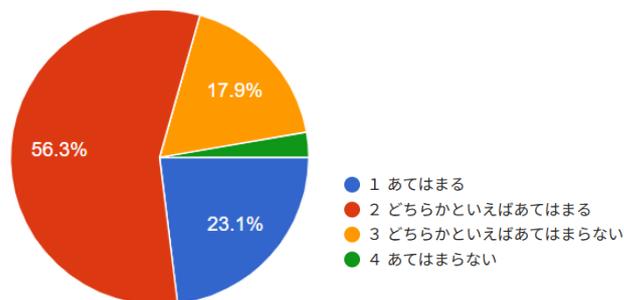


グラフ A から、質問事項に対し「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた生徒が 81.8%であった。8 割を超える生徒が「分かるまで取り組む」という姿勢を示している点は、生徒一人一人が学習に対して粘り強く取り組む態度を備えている証拠である。また、このような解決策を模索する姿勢は、生涯にわたって学び続けるための重要な資質である。

グラフ B から、質問事項に対し「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた生徒が 79.4%であった。単に「答えを知っている」状態ではなく、「解決へのプロセスを自らデザインする」ことに自信や確かな実感を抱いている生徒が 8 割近くいることが分かる。このことから、本校が昨年度までの研究で PBL を意識した授業改善に取り組んだことで、未知の事象に対しても課題解決に向けて前向きに取り組む姿勢が身につきつつあると言える。

グラフ B

これまで身に付けた学び方や解決方法を使って、実際に自らの力で授業の課題を解決する（授業の目標を達成する）ことができると思う。

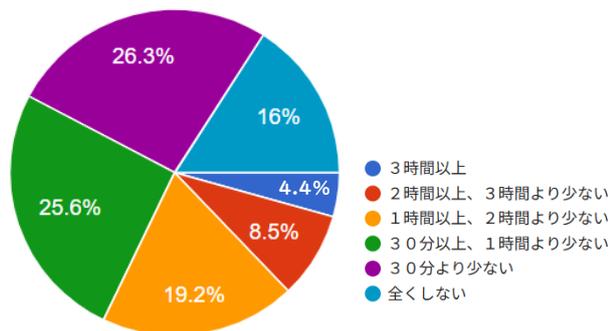


グラフ C から、質問事項に対し 1 時間未満と回答した生徒の割合は合わせて 67.9%であった。学校外の場において、自らの知的好奇心に応じて学びを拡大しようという姿勢が身につけていない生徒が多いことが伺える。

自らの興味・関心から生まれる知的好奇心に基づいて、疑問や課題を解決しようとする姿勢は生涯学習の基盤ともいえる。学校外において、自分で疑問を見出し、自分で解決へと導いてみたいという意識をどのように身に付けさせるかが今後の課題である。

グラフ C

自ら興味・関心を持って学習をする時間が1日当たりどれくらいありますか？（平日・土日問わず1日当たりの平均的な時間）



今年度からの研究テーマは「学び続ける生徒を目指して～“Study”から“Learn”へ～」である。アンケートの結果から「学校の授業」という枠組みの中で、様々な見方・考え方を働かせながら粘り強く課題解決へと向かう姿勢が確実に養われていることがわかった。一方、個々の興味・関心を起点として、学校外の時間でも主体的に学び続ける力には課題が残る。学校での成功体験を、いかに生涯にわたる主体的な探究へと昇華させるかが今後の課題と言えよう。